

多文化共生社会

今、日本には多くの外国籍の人々が住んでいます。今回は、多様な国籍の人たちとも、共に生きる社会「多文化共生社会」について特集します。

南さつま市でも外国人を見かけることは珍しくなくなっていますが、現在、外国人がどれくらい在住しているのでしょうか。

【南さつま市在住の外国人内訳】 2020年1月末現在

国 籍	人 数	各国のこんにちは
ベトナム	106	シン チャオ
インドネシア	81	スラマッシアン
フィリピン	18	マダンガンアラウ
中国	18	ニーハオ
アメリカ	5	ハロー
韓国	4	アンニョンハセヨ
ネパール	4	ナマステ
その他	8	
合 計	244	



一番多いのはベトナムからです。実際に交流している内山田の市来自治会の様子や市内在住の外国人にお話を伺いました。

インタビュー① 市来自治会の会長さん

*どのような交流をしていますか？

日常的に野菜のおすそ分けをしたり地域の行事（運動会・グラウンドゴルフ・鬼火たきなど）に誘ったりしています。「おいで～」と声をかけると参加してくれます。近所のお年寄りも、よく彼らの家に遊びに行っている人もいます。

*どうして交流しようと思いましたか？

彼らが来た時から、仲良くしてみたいと思っていました。母国や親元を離れて生活しているまだ年若い子たちを、子や孫のように思って助けあげたいという気持ちもあります。若い子たちがいると集落が明るく感じます。鹿児島弁で話しかけていますが、だいたい理解しているようですし、分からない子は日本語が上手な子に聞いて会話をしています。だからコミュニケーションで困ることはほとんどありません。

*外国人と交流する時に大事だと思うことは？

とにかくあいさつをするようにしていますね。声をかけると、相手もニコニコして返事をしてくれます。「仕事はいそがしいね～？」など、普通の話をしています。

インタビュー② 外国人住民のお話

*南さつま市に住んでみて

夫と共に、6年前に南さつま市に来ました。初めは寂しかったのですが、子どもを通して友達もできて楽しくなりました。南さつま市は子育てをするにはとてもいいです。それに近所の人や子どもをすごく気にかけてくれて助けてくれます。だから自然にとけこめた気がします。

日本人全体に対しての印象は、「やさしくてまじめ、最後まで責任を持ってやってくれる」です。わからないことを相談したら、丁寧に説明してくれるので生活しやすいです。最初の頃はいろんな手続きに時間がかかったりしましたが、ものすごく困ったということはありません。仕事でも、外国人でもちゃんと面接して採用してくれたことに驚いたうれしかったです。今も職場の人がかけてくれる励ましの一言がとてもありがたいです。モチベーションが上がります。

*外国人の立場から思うことがありますか？

外国人との接し方について、難しいことは考えずに、気軽に話しかけるといいです。励ましの一言がうれしいです。そして外国人への「理解」が大事だと思います。外国から来た私たちも、自国の文化や習慣は大事にしながらも日本のやり方や文化も知って慣れていくようにしています。

お話を伺って

お二人のお話には共通点がありました。それは、「外国人だから」と構えずに、共に生活している隣人として普通に会話し、助け合い、暮らしているということです。国によって文化や習慣は違いますが、お互いの国の文化や習慣を理解し、違いを認め合って、地域社会の構成員として共に生きていくこと、それが多文化共生社会です。

多文化共生社会は、教育・医療・福祉・防災など多くの側面と関わりがあります。外国籍の人々も含め、誰もが安心して暮らせる社会を、南さつま市は目指しています。



南さつま市男女共同参画推進懇話会
さんかく
第39号